

## 土木計画学ワンデーセミナー 利用者均衡配分の実務適用上の課題と工夫

主催：(社)土木学会、(財)計量計画研究所

2005年11月14日(月) 13:00~18:00

場所：土木学会講堂

道路交通需要推計の中心を成す技術である交通量配分には、従来は主に分割配分法が用いられてきた。しかし、交通需要推計に関するアカウンタビリティの高まりに呼応して、より理論的で透明性の高い交通量配分手法である「利用者均衡配分法」の実務への普及が期待されている。

IBSでは利用者均衡配分手法の実用化、普及に向けた取り組みを継続的に行っており、近年は、土木学会土木計画学研究委員会交通需要予測技術検討小委員会に協力して、平成15年には書籍「道路交通需要予測の理論と適用第I編利用者均衡配分の適用に向けて」を出版、平成16年には土木学会の講習会「利用者均衡配分の実務適用に向けて」の開催といった成果を上げてきた。

一方、ここ数年各地での適用性検討が進むに連れて、インプット条件の設定方法や配分計算上の問題など、実務適用上の具体的な課題が明らかになってきている。

これらの経緯を踏まえて開催した今回のセミナーは、交通需要推計業務に携わる実務者の視点に立って、利用者均衡配分を実務に適用する上で必須とな

る計算技術や前提条件の設定上の課題と工夫についてわかりやすく解説しながら、実務上必要となる対応方法についてセミナー参加者とともに討議し、理解を深めていただくことを目的としたものである。なお、このセミナーは土木学会とIBSの共催であり、土木学会にとっては土木計画学ワンデーセミナー第47回として位置づけられている。

セミナーは、表に示す各テーマについて講演者による発表・解説に続いて、コメンテーターからのコメント、問題提起、フロアの参加者を交えた討議の順で進行した。当日は157人(学術関係12人、省庁関係57人、地方自治体2人、コンサルタント86人)の参加をいただき、各課題への対応策について情報を共有するとともに、必ずしもすぐに答の出せない課題についても問題意識の共有を図ることができた。

今後も、実務者の視点に立って利用者均衡配分に関する分析、知見の蓄積を進め、適宜、情報提供の場を設けて行きたいと考えている。

(都市・交通研究室 井上紳一、交通系 加藤昌樹)

表 プログラム

|                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| (1) 開会挨拶                    | 太田勝敏 (東洋大学)              |
| (2) 交通量推計を取り巻く最新動向          | 高橋勝美 ((財)計量計画研究所)        |
| (3) リンクパフォーマンス関数の設定方法の課題と工夫 | 森尾淳 ((財)計量計画研究所)         |
|                             | *吉田禎雄 ((株)インテルテック研究所)    |
| (4) 有料道路の扱い方の課題と工夫          | 岡本篤樹 ((株)都市交通計画研究所)      |
|                             | *立石亮祐 ((株)福山コンサルタント)     |
| (5) アルゴリズムと収束判定に関する課題と工夫    | 井上紳一 ((財)計量計画研究所)        |
|                             | *岡田良之 ((株)長大)            |
| (6) 費用便益分析を実施する場合の課題の工夫     | 毛利雄一 ((財)計量計画研究所)        |
|                             | *田川浩二 (パシフィックコンサルタンツ(株)) |
| (7) 総括質疑                    |                          |
| (8) 閉会挨拶                    | 矢島隆 ((財)計量計画研究所)         |
|                             | (*印はコメンテーター)             |